



株主のみなさまへ

第113期 中間報告書

2023年4月1日～2023年9月30日



INDEX

宝グループ概要	1
社長メッセージ	2
TOPICS	3
業績ハイライト	5
会社情報	6





宝ホールディングス

グループ経営の統括

和酒・日本食とライフサイエンスにおける多様な価値を提供する



宝酒造(国内事業)

売上構成比
37.5%

主な
事業内容

焼酎、清酒、ソフトアルコール飲料、
本みりん、食品調味料、原料用アル
コールなどの製造・販売

今後の戦略

和酒No.1メーカーの
ポジションを活用した
付加価値経営への変革



宝酒造インターナショナル
グループ(海外事業)

売上構成比
47.3%

主な
事業内容

酒類・調味料などの輸出および
海外子会社での製造販売、
海外の日本食材卸子会社における
酒類・食品などの輸入・販売

今後の戦略

国内事業との協業と
国内外でのグループシナジーの
さらなる発揮



タカラバイオグループ
(バイオ事業)

売上構成比
11.7%

主な
事業内容

試薬、機器などの製造・販売、
CDMO受託、遺伝子医療

今後の戦略

試薬・機器事業と
CDMO事業を通じた
バイオ創薬基盤技術の開発



2024年3月期第2四半期累計期間売上構成比

長期経営構想「TaKaRa Group Challenge for the 100th」

▶ Vision (ありたい姿)

Smiles in Life

～笑顔は人生の宝～

宝グループは、おいしさを追求する技術と革新的なバイオ技術によって、和酒・日本食とライフサイエンスにおける多様な価値を安全・安心に提供する企業グループとして、世界中の暮らしを、命を、人生を、笑顔で満たすために挑戦し続けます。

▶ 事業戦略

宝酒造

国内の和酒No.1メーカーのポジションを活用した付加価値経営への変革によって、着実に利益成長できる事業基盤を再構築し、企業イメージを向上させてグローバル和酒No.1企業^(※1)としての根幹を支える。

※1: 国内+海外(輸出+現地生産)で和酒No.1

宝酒造インターナショナルグループ

グローバルな和酒の拡大を加速させるとともに、海外日本食材卸のネットワークの拡充を進めながら、国内外でのグループシナジーをさらに発揮し、海外における和酒・日本食材No.1企業^(※2)を目指す。

※2: 海外(輸出+現地生産)和酒No.1+海外日本食材卸No.1

タカラバイオグループ

試薬・機器事業とCDMO事業を通じ、バイオ創薬基盤技術開発を進め、新モダリティ(治療法)を創出し続ける創薬企業を目指す。

社長メッセージ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配をたまり厚くお礼申し上げます。

ここに、第113期第2四半期(2023年4月1日から2023年9月30日まで)の宝グループ事業概況などについてご報告申し上げます。

2024年3月期第2四半期累計期間の業績概況

当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、宝酒造は、昨年10月の価格改定前に駆け込み需要があった影響もあり、減収となりました。宝酒造インターナショナルグループは、海外酒類事業、海外日本食材卸事業ともに好調に推移したことや、新たにグループに迎え入れた企業の業績の上乗せ、円安の寄与もあり、増収となりました。タカラバイオグループは、主に新型コロナウイルス感染症の法令上の位置づけの変更による検査関連試薬の販売減少により、減収となり、グループ全体の売上高は1,631億7,200万円(前期比0.7%減)となりました。

利益面では、宝酒造は、主に価格改定の効果による売上総利益の増加で増益となり、宝酒造インターナショナルグループは、引き続き売上高が好調に推移したことで、人件費の高騰等を吸収し、増益となったものの、タカラバイオグループが、売上高の減少による売上総利益の減少と研究開発費等販管費の増加により減益となり、グループ全体では、営業利益124億6,400万円(前期比36.5%減)、経常利益130億3,200万円(前期比34.7%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益80億4,300万円(前期比26.0%減)となりました。(セグメント別の売上高および営業利益につきましては、5ページをご覧ください。)

2024年3月期通期の業績予想と株主還元について

各セグメントの2024年3月期通期の見通しは、宝酒造では、売上高は、ソフトアルコール飲料が増加するものの、焼酎、清酒が減少し、減収となりますが、営業利益は、価格改定効果等により、ブランド育成のための広告宣伝費および販売促進費の増加を吸収し、増益となる見通しです。

宝酒造インターナショナルグループは、インフレによる消費の鈍化は進んでいるものの、世界的な日本食の広がりにより、海外酒類事業、海外日本食材卸事業ともに前年を上回ることで、増収増益となる見通しです。

タカラバイオグループは、新型コロナウイルス検査関連試薬の販売減少、インフレの長期化や経済不況の影響等を受けて



代表取締役社長

木村 睦

世界のライフサイエンス研究開発市場が低迷するとともに、製品やサービスの価格競争も激化していることから、減収減益となる見通しです。

以上の結果、通期の連結業績予想につきましては、タカラバイオグループが売上高、営業利益ともに期初計画から下回ること等により、グループ全体では売上高3,410億円(前期比2.8%減)、営業利益217億円(前期比42.8%減)、経常利益225億円(前期比41.9%減)へ修正いたします。親会社株主に帰属する当期純利益は、政策保有株式の売却等による特別利益を計上することから、150億円(前期比29.3%減)と、前回予想からの修正はございません。厳しい経営環境は続きますが、今回発表した計画値を達成できるよう各事業取り組んでまいります。

なお、配当につきましては、配当性向で35%を目途とし、利益水準に応じた適切な株主還元を実施するという方針に基づき、一株当たり27円としており、期初計画からの修正はございません。

また、株主還元および経営環境に応じた機動的な資本政策を遂行するため、300万株、30億円を上限とする自己株式の取得と取得した自己株式の消却を行うことを公表しました。

企業価値の向上に向けて

当社グループでは、長期経営構想「TaKaRa Group Challenge for the 100th」のVision(ありたい姿)を、「Smiles in Life ~笑顔は人生の宝~」とし、「Smiles in Life」を、当社グループにおける最も重要なワードとして掲げています。笑顔は人生においてかけがえのない大切なものと定義し、世界の人々に和酒・日本食を通じて豊かな食生活をお届けするとともに、人々の健康的な暮らしに貢献することで、Visionの実現と企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様には、引き続き当社グループへの温かいご支援をたまりませんよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

2023年12月



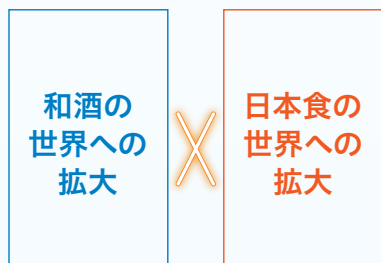
宝酒造インターナショナルグループ

日本食文化(和酒・日本食)の世界浸透を目指して



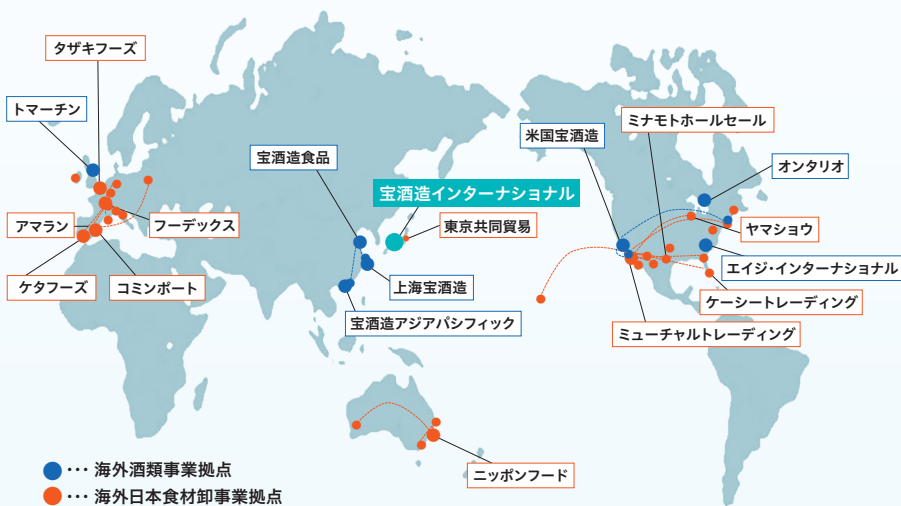
宝酒造インターナショナルグループは、宝酒造や国内外のグループ会社と協業し、「日本食文化の世界浸透」を目指しており、日本食文化浸透のビジネスモデルの構築のため、今年5月にカナダの清酒蔵オンタリオ社、9月には米国の日本食材卸会社ミナモトホールセール社を新たにグループ化しました。

日本食文化浸透のビジネスモデル



成長・強化領域への投資を強化

宝酒造インターナショナルグループ事業拠点



和酒

カナダの清酒蔵をグループ化

宝酒造インターナショナルは、カナダオンタリオ州トロント市で清酒等の製造・販売を行うオンタリオ社の発行済株式の80%を取得し、連結子会社としました。

オンタリオ社は、2010年に設立された、カナダ東部の州で唯一の酒蔵であり、主に日本食市場向けに清酒(泉/Izumi)や、従来の和酒の領域にとられない、清酒をベースとした「Sakeカクテル」の製造・販売事業を展開しています。

世界では、伝統的な酒づくりとともに、従来の清酒の枠にとられない、その土地や食文化に合わせた「イノベティブなSAKE※」づくりが行われています。宝酒造インターナショナルグループにおいても、伝統的な酒づくりに加えて、現地ニーズに合わせた和酒の領域を拡張する「イノベティブなSAKE」の開発をさらに強化していく方針です。

※イノベティブなSAKE:従来の和酒の領域を拡張する革新的なお酒



日本食

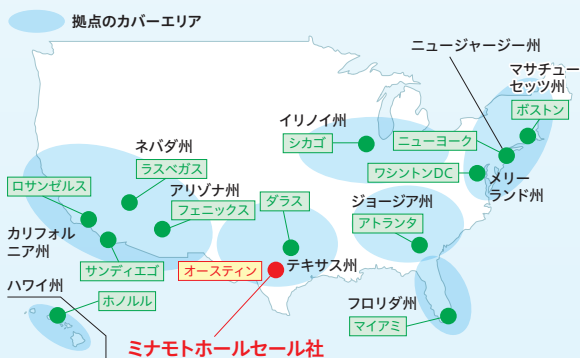
米国における海外日本食材卸ネットワークの強化

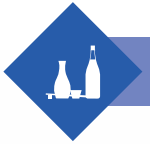
ミューチャルトレーディング社は、テキサス州オースティン市にあるミナモトホールセール社の全持分を取得しました。これにより、米国における日本食材卸の拠点数は11州13拠点となりました。

テキサス州は、人口が全米2位であり、経済成長が期待される地域です。日本食レストランの数も全米4位であり、軒数上位5州の中では最も高い伸びを示しています。今回の持分取得により、テキサス州南部での営業の強化および物流の効率化が可能となります。

さらに、ヒューストン市に新たな営業・物流拠点を開設する計画で、これにより、テキサス州南部の大都市圏一帯など周辺エリアでの販売をさらに強化してまいります。

● 海外日本食材卸の米国拠点地図(11州13拠点)





宝酒造

松竹梅白壁蔵「^{ねんど}然土」数量・ルート限定新発売

宝酒造は、“松竹梅白壁蔵「然土」”を400本の数量限定・業務用ルート限定で新発売しました。同商品は、「松竹梅」ブランドが目指し続けてきた“食中酒として飲みごたえがあり、飲み飽きしないおいしさ”を象徴する商品です。米の旨みがしっかり感じられる厚みのある味わいと、華やかさから始まる複雑な奥深い香りにより、料理と濃厚にとろけあう食中酒としてお楽しみいただけます。

製造には日本伝統の「生酛造り」を採用し、灘の松竹梅白壁蔵での高水準な微生物生育の工程管理により、目指す味わいを実現しました。原料米には兵庫県西脇市産の山田錦を使用。専業農家と協力し、品質改良に取り組むとともに、メタンガス発生抑制^{※1}や農薬の低減等の環境負荷軽減への取り組みも行っています。

商品名「然土」には、田の土づくりから始めるというこだわりと、「N・end (Never・end)」により、美しい自然を守り、新しい日本酒の未来を築く活動を継続するという意味を込めています。

また、コンサルタントとして日本在住者唯一のマスターオブワイン^{※2}大橋健一氏^{※3}を招聘し、商品開発と世界への情報発信を行う「松竹梅プロジェクト」を推進していきます。

宝酒造は、同商品発売により、「これからの“いい日本酒”=米の旨みを感じられる食中酒」という価値を創造し、おいしさで選ばれる「松竹梅」の品質イメージを向上してまいります。



松竹梅白壁蔵「然土」

※1: 稲わら分解の最適化や稲の中干し期間の延長により、CO₂の25倍の温室効果を持つメタンガスを最大69%削減。

※2: 英国のマスターオブワイン協会が認定するワインにおける世界最難関・最高峰の資格。

※3: 全国新酒鑑評会審査委員会委員、酒類専門店・株式会社 山仁代表取締役社長。(独)酒類総合研究所 清酒専門評価者、世界最大級の日本酒コンクールであるインターナショナル・ワイン・チャレンジ (IWC)の日本酒部門議長として、長年にわたり日本酒の世界的な啓蒙にも携わる。



タカラバイオグループ

mRNAワクチン原薬や部素材等を製造する 遺伝子・細胞プロセッシングセンター3号棟を建設

タカラバイオは、滋賀県草津市の本社地区内にmRNAワクチン原薬やmRNA製造用酵素等の部素材を製造する遺伝子・細胞プロセッシングセンター3号棟(以下、本施設)を建設します。着工は2024年度、竣工は2027年度の予定です。

本施設は、デュアルユース型施設として、感染症パンデミック発生時(有事)には国の指示に基づきウイルスベクターワクチン原薬、mRNAワクチン原薬およびmRNA製造用酵素等の部素材を製造します。一方、平時には、遺伝子治療用ベクター、核酸医薬品等を製造するCDMO事業に加え、遺伝子治療薬の製造補助剤等の製造や、再生・細胞医療・遺伝子治療に関連する自社の創薬事業を行う予定です。本施設における有事の製造品群は、平時のCDMO/創薬等の自社事業で扱う製品群と設備・技術の共通性が高く、平時から有事への業務シフトを円滑に進めることができます。

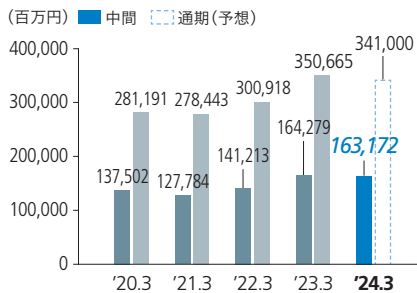
タカラバイオは今後も、再生・細胞医療・遺伝子治療のCDMOのリーディングカンパニーとして、拡大する製薬企業等の開発を支援するとともに、新規モダリティを創造する創薬事業を推進し、人々の健康に貢献します。



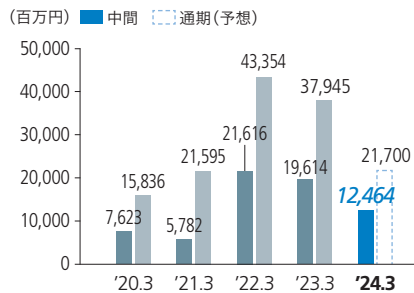
遺伝子・細胞プロセッシングセンター3号棟【完成イメージ】

宝グループ連結

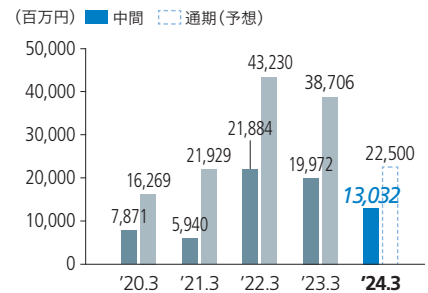
売上高



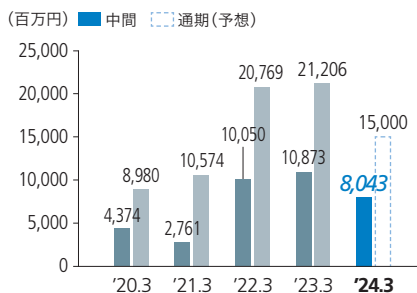
営業利益



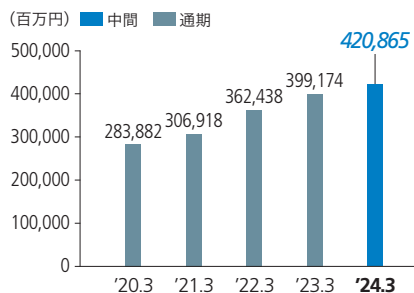
経常利益



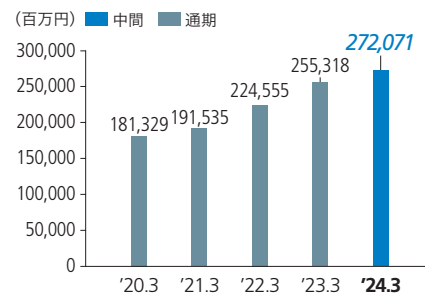
親会社株主に帰属する当期純利益



総資産



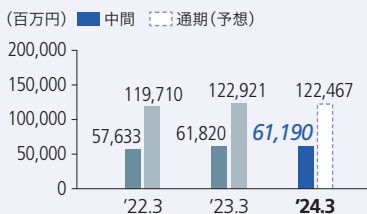
純資産



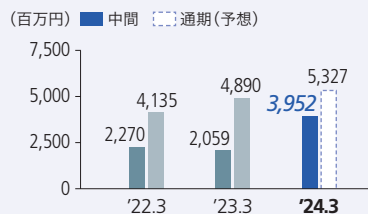
(注) 2022年3月期より、収益認識に関する会計基準等の適用に伴い、従来販売費及び一般管理費で処理していた費用の一部を売上高から控除しております。

宝酒造

売上高



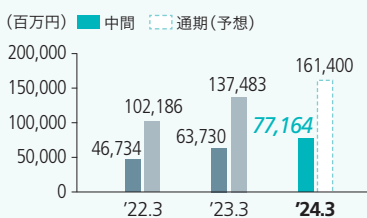
営業利益



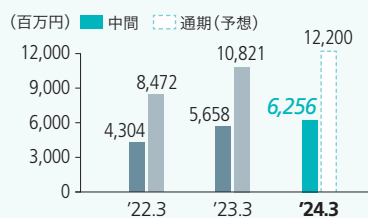
売上高は、ソフトアルコール飲料や原料用アルコール等が増加しましたが、昨年10月に行った価格改定前の駆け込み需要もあり、前期比1.0%の減収となりました。営業利益は、主に価格改定の効果による売上総利益の増加で、前期比91.9%の増益となりました。

宝酒造インターナショナルグループ

売上高



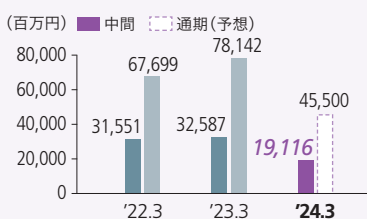
営業利益



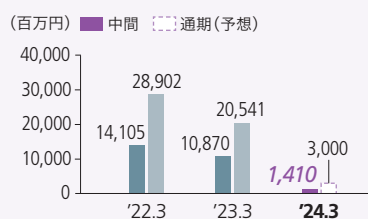
売上高は、海外酒類事業、海外日本食材卸事業ともに好調に推移したこと、新たにグループに迎え入れた企業の上乗せ、円安の寄与もあり、前期比21.1%の増収となりました。営業利益は、売上高増加による売上総利益の増加により、人件費の高騰等による販売費及び一般管理費の増加を吸収し、前期比10.6%の増益となりました。

タカラバイオグループ

売上高



営業利益



売上高は、新型コロナウイルス感染症の法令上の位置づけの変更による検査関連試薬の販売減少等で、前期比41.3%の減収となりました。営業利益は、売上高の減少による売上総利益の減少と研究開発費等の販売費及び一般管理費の増加により、87.0%の減益となりました。

会社情報 (2023年9月30日現在)

■ 会社概要

商号	宝ホールディングス株式会社 (英文表記: TAKARA HOLDINGS INC.)
本店所在地	京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地 TEL 075-241-5130
設立	1925年(大正14年)9月6日
資本金	132億2,621万5,144円
従業員数	190名(グループ連結:5,171名) (2023年3月31日現在)
連結対象会社	63社

■ 取締役および監査役

代表取締役社長	木村 睦
常務取締役	高橋 秀夫
取締役	仲尾 功一
取締役	森 圭助
取締役(社外取締役)	友常 理子
取締役(社外取締役)	川上 智子
取締役(社外取締役)	本宮 孝夫
常勤監査役	三井 照明
常勤監査役(社外監査役)	山中 俊人
常勤監査役	鈴木 洋一
常勤監査役(社外監査役)	松永 諭
監査役(社外監査役)	吉本 明子

■ 株式の状況

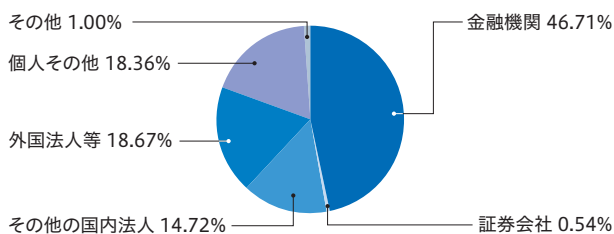
発行可能株式総数	870,000,000株
発行済株式総数	199,699,743株
株主数	66,154名

■ 大株主(上位10名)

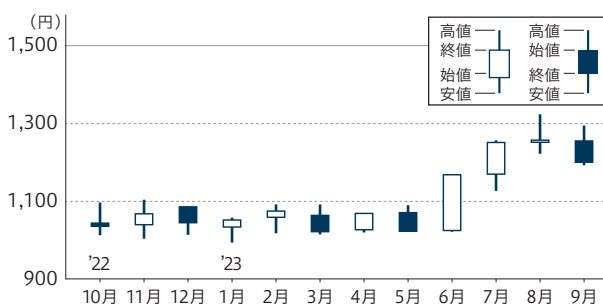
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	32,407	16.39
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	14,112	7.14
株式会社みずほ銀行	9,738	4.93
農林中央金庫	9,500	4.81
明治安田生命保険相互会社	5,370	2.72
株式会社京都銀行	5,000	2.53
東京海上日動火災保険株式会社	3,878	1.96
国分グループ本社株式会社	3,489	1.77
宝グループ社員持株会	3,234	1.64
日本アルコール販売株式会社	3,000	1.52

(注) 1. 持株数の千株未満は切り捨てております。
2. 持株比率は、自己株式(1,995千株)を控除して計算しております。

■ 所有者別株式分布状況



■ 株価の推移



サステナビリティ News

統合報告書「宝グループレポート2023」を発行

「宝グループレポート」では、財務情報や事業戦略、サステナビリティをはじめとする様々な課題に対する当社グループの考え方や取り組み状況を示しており、この度「宝グループレポート2023」を発行いたしました。

今回のレポートでは、長期経営構想「TaKaRa Group Challenge for the 100th」のVision実現に向けた総仕上げとして策定した中期経営計画「宝グループ中期経営計画2025」の取り組みなどを紹介しております。当レポートを通じて、当社グループが目指す、商品・サービスを通じた社会課題の解決と、成長原資を生み出す「稼ぐ力」の向上を統合した経営についてお伝えできればと考えています。

当社ウェブサイトに掲載されておりますので是非ご一読ください。

<https://ir.takara.co.jp/ja/Library/AnnualReport.html>



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	● 定時株主総会(議決権行使)、期末配当 毎年3月31日 ● その他必要があるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。
単元株式数	100株
上場取引所	東証プライム市場
証券コード	2531

公告方法 電子公告により、当社ウェブサイトに掲載します。(https://www.takara.co.jp)
ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、京都新聞および日本経済新聞に掲載して行います。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社

株式に関するお問合せ先 以下の表をご覧ください。

株式に関するお問合せ先

	証券会社の口座で株式を管理されている場合	証券会社の口座で株式を管理されていない場合(特別口座の場合)
住所変更、株式配当金受取方法の変更およびマイナンバーのお届出などのお問合せ	口座を開設されている証券会社にお問合せください。	みずほ信託銀行 証券代行部 ウェブサイト https://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html
未払配当金、その他当社株式関係書類についてのお問合せ	右記みずほ信託銀行にお問合せください。	フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
株主総会資料の電子提供制度(書面交付請求)についてのお問合せ	口座を開設されている証券会社または右記みずほ信託銀行(電子提供制度専用窓口)にお問合せください。	〈電子提供制度専用窓口〉 フリーダイヤル 0120-524-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)



特別口座で株式を保有されている方へ

特別口座に記録されている株式は、株式市場での売買はできません。株式市場における株式売買のためには、証券会社にお取引口座を開設し、みずほ信託銀行の特別口座からの株式の振替手続が必要となります。

単元未満株式を保有されている方へ

単元未満株式(100株未満株式)をお持ちの場合、会社に対して、次の請求を行うことができます。

1. 単元未満株式の買取りを請求する(買取請求)
2. 単元株式(100株)にするため、不足する株数の株式の売渡しを請求する(買増請求)

お問合せ先

証券会社の口座で管理されている単元未満株式
▶ 口座を開設されている証券会社
特別口座で管理されている単元未満株式
▶ みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

株主優待制度について

当社は、毎年3月31日現在の株主名簿に記録された、当社株式100株以上を保有されている株主様を対象とした株主優待制度を実施しています。ご案内は、毎年6月上旬にご送付しております定時株主総会招集ご通知に同封してお送りいたします。

● ご優待内容

当社株式の保有数に応じて優待品を年1回贈呈いたします。

100株以上1,000株未満	1,000円相当
1,000株以上	3,000円相当

上記金額相当の酒類詰め合わせ、調味料詰め合わせより1点選択(優待品に代えて社会貢献活動への寄付も選択可)

※ 本年度実施分の申込み受付は終了いたしました。

<社会貢献活動への寄付実績ご報告>

本年度は、株主の皆様よりお申込みいただいた結果に基づき、次のとおり寄付を行いました。
ご賛同いただきました株主様に対し、厚くお礼申しあげます。

公益信託「タカラ・ハーモニストファンド」	596,000円
日本赤十字社	1,138,000円

株主通信「株主のみなさまへ」発行取りやめのお知らせ

株主の皆様へご送付しておりました宝グループの株主通信につきまして、地球環境を配慮した省資源化の観点や当社ウェブサイトの内容と重複していることから、今号の「第113期 中間報告書」をもちまして、発行を取りやめさせていただきます。何卒ご理解いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。当社の主要な情報、最新情報につきまして、今後は当社ウェブサイトにてご確認ください。

宝ホールディングスウェブサイトはこちら ▶ www.takara.co.jp



(注) この報告書に記載されている業績予想等の将来に関する事項は、現時点で入手可能な情報から得られた判断に基づいていますが、実際の業績等は、予期しない経済状況の変化をはじめさまざまな要因により、大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



この印刷物は、環境に配慮した植物油インキと、適切に管理されたFSC®認証林およびその他の管理された供給源から作られた紙を使用して制作されています。